

2022 年行事予定

- 4月23日(土) 第1回理事会(Zoom 会議)
- 5月20日(金) 第1回年次大会(鹿児島)
～21日(土)
- 5月20日(金) 第2回理事会、
生涯教育講演会
- 21日(土) 第60回総会(任意団体)、
2022年度定時社員総会
- 6月10日(金) 第91回教育セミナー
～20日(月) (WEBセミナー形式)
- 7月22日(金) 第39回臨床検査振興
セミナー(ライブ配信)
- 9月17日(土) 第3回理事会
- 11月11日(金) 臨床検査の日、
全国検査と健康展
- 11月17日(木) 第69回日本臨床検査医
学会学術集会(宇都宮)
- 11月17日(木) 第4回理事会、2022年度
臨時社員総会・講演会、
共催セミナー(学術集会
会期中に開催予定)
- 11月～12月 役員選挙
- 2023年1月～3月 第5回理事会、要覧発行

巻頭言

日本臨床検査振興協議会(JPCLT)へのご協力のお願い

群馬大学大学院医学系研究科 臨床検査医学
村上 正巳

日本臨床検査専門医会、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査医学会、日本衛生検査所協会ならびに日本臨床検査薬協会の臨床検査に関わる5つの会員団体からなる日本臨床検査振興協議会(JPCLT)は2005年4月に設立され、2022年4月1日に一般社団法人となりました。2022年5月30日に日本臨床検査振興協議会の定時社員総会と理事会が開催され、私が理事長を拝命いたしました。日本臨床検査専門医会からは、ベ谷直人先生に副理事長、山田俊幸先生に理事をお務めいただいています。

日本臨床検査振興協議会は、国民、行政および医療機関等に広く臨床検査の重要性の理解を求め、その適正な活用を促進し、国民の健康に寄与することを目的として活動しています。臨床検査に関わる職能団体(日本臨床検査専門医会ならびに日本臨床衛生検査技師会)、学術団体(日本臨床検査医学会)、業界団体(日本衛生検査所協会ならびに日本臨床検査薬協会)で協力して重要な課題に対応するために、診療報酬委員会、医療政策委員会、大規模災害対策委員会、広報委員会、将来ビジョン検討委員会の5つの委員会を設置しています。

診療報酬委員会には、保険診療における個別の検査項目を検討する診療報酬改定小委員会と制度自体を検討する診療報酬制度小委員会が設置され、診療報酬改定に向けて臨床検査に係る各団体からの要望をとりまとめ、診療報酬に反映させる活動を行っています。医療政策委員会には、在宅医療における臨床検査小委員会、遺伝子関連検査に関する小委員会、感染症対策に関する小委員会が設置されています。在宅医療における臨床検査小委員会では、在宅臨床検査医学の普及と啓発に向けた取り組みを行い、「在宅医療における臨床検査医学」を出版しました。遺伝子関連検査に関する小委員会では、「がん遺伝子パネル検査の品質・精度の確保に関する基本的考え方」や「リキッドバイオプシーによる循環血中の腫瘍由来 DNA 検査の質保証に関する見解」をとりまとめて、公表しました。感染症対策に関する小委員会では、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたCOVID-19検査実施体制の考え方」、「新型コロナウイルス抗原検査キットの薬局等における販売についての留意事項」や「新型コロナウイルス感染症オミクロン株の急速な感染拡大に伴う検査提供体制の優先順位について」などの提言、「医療用(体外診断用医薬品)抗原定性検査キットとは?」などの啓発資料を公表しています。大規模災害対策委員会では、「大規模災害対策規程」を制定し、豪雨、地震、津波、噴火などの災害が発生した際に、会員団体間の連携を促進することにより、医療機関の要請に応え、被災地への支援員の派遣や臨床検査機器ならびに体外診断用医薬品の支援提供などの災害支援の対応を行っています。広報委員会では、臨床検査に関する啓発、検査と健康展やこども霞が関見学デーへの協力などの取り組みを行っています。「りんしょう犬さん」をマスコットキャラクターとし、親しみやすいホームページとなるよう努めています(<https://www.jpclt.org>)。

臨床検査をとり巻く多様な課題に効果的に対応するためには、臨床検査に係る単独の団体でなく、主要な5つの会員団体が連携し、協力して取り組むことが重要と考えます。中でも日本臨床検査専門医会、日本臨床検査振興協議会のあり方や今後の方向性を検討していただく上で、大変重要な役割を担っていただいています。日本臨床衛生検査技師会の臨床検査技師、日本衛生検査所協会の検査センター、日本臨床検査薬協会の臨床検査の機器・試薬の企業と連携することにより、臨床検査専門医として考えられているアイデアをより効果的に実現できるものと考えます。そのような取り組みを通じて、臨床検査の重要性が国民に周知され、わが国の医療における臨床検査専門医の役割が広く認知されるものと思います。臨床検査専門医は、日本臨床検査振興協議会の活動をリードしていただく役割が期待されていますので、是非ともご協力とご支援をお願いいたします。日本臨床検査振興協議会の既存の委員会へのご要望や、新たな委員会の設置のご提案など、積極的にお寄せいただければ幸いです。

結びにあたりまして、日本臨床検査専門医会の益々のご発展をお祈りいたします。

【目次】

- p.1 巻頭言
- p.2 「臨床検査医学への提言」第5回
- p.3 事務局からのお知らせ、第60回日本臨床検査専門医会総会報告、
- p.4 2022年度定時社員総会報告、第1回年次大会報告、第39回臨床検査振興セミナーのお知らせ、第69回日本臨床検査医学会学術集会のお知らせ、2022年度会費振込のお願い、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について
- p.5 会員の声
- p.6 会員の声、編集後記



りんしょう犬さんスタンプ
購入サイト

りんしょう犬さん LINE スタンプの検索方法

LINE→ウォレット→スタンプショップ



「りんしょう犬さん」を検索
検索結果→「クリエイターズ」を選択

<https://store.line.me/stickershop/product/8679516>

※ 収益が発生した場合は全て「臨床検査」の重要性を
社会に伝える活動に使用させていただきます

臨床検査医学への提言

自治医科大学名誉教授
櫻林 郁之介

I. なぜ臨床検査医学(臨床病理)を選択したか

「臨床検査医学への提言」とのお題を頂戴して、有り難くも、リレー方式で信州大学医学部 本田孝行教授からご推薦いただいた。

そもそもなぜ私が、臨床病理学を学んだかという、医学部卒業時に同期3人で臨床をやる前に臨床に近い基礎医学でもっと基礎知識をつけてからにしようとなり、最も臨床に近い基礎医学は臨床病理であろうとなり、当時の土屋俊夫教授と新しい臨床病理の研鑽を積んでアメリカから帰国した河合 忠准教授(後に自治医科大学教授)がおられた日大臨床病理学教室に入局して薫陶を受けたのが人生の転換点であった。

日大駿河台病院に配属され、ポリクリで回ってくる学生の講義、実習を担当した頃、河合先生がアメリカで培った豊富な知識と新しい臨床病理学(臨床検査医学)を日本に導入し始めた時で、先生の研究会や学会の講演、学生の講義などを拝聴しながら新しい臨床検査(臨床病理学)について学んだ。

そんな中、卒後6年目に河合先生から、栃木に新しい医科大学ができるのでどうかとお誘いを受けて、新妻と共に1973年栃木の田圃が広がり、松林の広大な森の中にまだ建設中の自治医科大学に赴任した。そこで、河合先生指導の元、中央臨床検査部の日常業務の中で臨床検査に関する新しい項目の開発、臨床検査試薬会社や検査機器メーカーから持ち込まれた試薬や機器での治験取りや、臨床各科から依頼された臨床検査異常や判読が難解な症例の検討、臨床検査センターでの免疫電気泳動の判読から発見された稀有な症例の検討などを含めた、血漿蛋白異常や脂質リポ蛋白に関する研究を行い、その成果は国内外の学会での発表やアメリカなど外国雑誌に論文として発表した。

また、河合先生がアメリカ留学で会得したRCPCのやり方や考え方は非常に新鮮で、日常使用している臨床検査を用いてそこまで病態を判定できるかと衝撃を受けた。この知識、やり方は臨床病理学実習の中で実践され、我々は臨床検査の読み方を会得して、医学生のためのゼミを開いたところ多くの学生が集まってきたのは、「医学は考える学問である」と言う魅力を感じ取ったからに他ならない。現在、自治医科大学を卒業した学生が全国で活躍しているが、今でも、会うと当時のゼミ生が学生時代の検査の読み方(RCPC)の実習講義の話をしてくれるのを聞くと、臨床検査の魅力を感じとっていたことに感銘を受けるが、彼らが総合医であることと関連がある。

II. 臨床検査医・臨床医として修行

私自身は平成元年に自治医科大学さいたま(当時大宮)医療センターが建設されて、臨床検査部長として赴任した。この医療センターの診療科の講座は2つにまとめられ、総合医学第一講座と総合医学第二講座に分けられていた。総合医学第一講座に所属する科は内科系で、その中に循環器、内分泌代謝科、消化器、など14科が所属し、総合医学第二講座は外科系で、心臓血管外科、消化器肝臓外科など15科、2つのセンターがあり、それぞれの科に教授がいた。この組織のおかげで、各科の垣根が低く、各科の先生や各部門との交流がたやすく、仕事はし易かった。退職した今でも、現センター長から、看護部、事務系から清掃部、守衛の方に至るまで時々病院に出入りしていても気軽に声をかけていただくのは有り難たい。

センター開設時、初代センター長 池田正男先生が「君は医師なので、診療もやるべきでしょう」とおっしゃっていただき、喜んで内分泌代謝科の一員として診療に携わった。しばらく臨床から遠ざかっていたので最初は最近の薬名も、最新医薬品の本を片手に教え子である各科の卒業生に聞きながら、診療に携わり、かつ検査部長を兼任した。

内科診療では、臨床検査データの重要性に改めて気付かされたが、心電図や各部位の超音波画像、胸部X線やCT、MRI画像などのデータと同様、病態把握に不可欠であるが、データ解析において臨床検査医は個々の検査値の変動や値の信頼限界を知っている点で検査値の見方が臨床医とは異なる場合があることを知った。しかも、患者さんは高齢になると、複数の疾患に罹患しており、他科への協診が必要となるが、そのような場合でも、臨床検査値を幅広く理解しているので、他科への協診依頼が的確になることも多い。

一方、自治医科大学を卒業した医師は総合医として地域医療を一人で背負うような場合も少なくなく、時に内科を標榜していても離島などにおいて医師1人で診療していれば、ドクターヘリを要請するような命に関わるような逼迫した時はいざ知らず、産科や外科あるいは小児科などを引き受けるような状態はザラにあると聞く。すなわち、自治医大の卒業生が勤務している地域では総合医の仕事が当たり前であり、しかも若い医師が僻地で活躍するという今まで日本にはなかった状態が常態化している。今は大学が拠点となる全国ネットワークが構築されて、地域医療に携わる医師の元に専門の医師による診断結果や画像解析などがリアルタイムで配信され、僻地医療の質的向上が実現している。

III. 臨床検査と研究

かつて、虎の門病院臨床化学部長 北村元仕先生が「検査室は宝の山である」と言っておられた。我々昭和の時代にはまさに宝が眠っていたのか、若い時には色々な研究をさせていただいた。その間に、各科や他施設の先生方、臨床検査技師、研究所、製薬会社、臨床検査試薬会社、臨床検査所などの方々を借りて、論文にまとめ上げたが、その大半が臨床検査にまつわる事である。その一部はBlood, Circulation, Proc Natl Acad Sci USA, J Am Soc Hypertens, Clinical Chemistry, Clin Exp Immunol, Immunology, BBRC, Ann Clin Biochem, Clinica Chimica Acta, Atherosclerosisなどに原著として発表できたが、研究者としての自信をつけてもらった事は人生の中で大きいウエイトを占めているが、臨床でも役立つことが多々あり、他科の医師へのアピールにもなった。

卒業時に基礎力をつけてから臨床をやろうという私自身の意思は現在患者さんを診ていてある程度実現しているのではないと思うが、患者さんの訴えに耳を傾け、患者さんに寄り添う医療を行えていると思う。その裏には若い時に学んだ臨床病理学があると実感している。

IV. 臨床検査専門医活躍の場

H28年の診療報酬改訂で検体検査管理加算に改定が加えられ、「他の診療等を行っている場合はこれに該当しない」の項目が削除され、3年前にさらに解釈が緩和されて、臨床検査医の活躍の場がやや増えたのは喜ばしい。すなわち、臨床検査医が臨床医や病理医として活動していても検体管理加算が付加されることになり、病院での地位の確保と臨床とのつながりを密にする意味でも価値があり、臨床検査医の存在を知らしめる意味がある。

さて、RCPCで磨かれた叡智はどこで発揮されるか、それは総合診療部を含む臨床の現場であり、信大(勝山勉名誉教

授、本田孝行教授)がそうであるように、学生の講義・実習でRCPCを実践し、CPCや院内カンファランスで積極的に意見を述べることに、さらに地位の向上を目指して欲しい。また、医療という広い分野で考えても、自治医大の小谷和彦教授の提唱する在宅・介護医療分野でのPOCTを含む臨床検査の有用性を高めるのは総合力を持つ臨床検査専門医しかないのではないだろうか。

3年前に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)でPCR検査がクローズアップされたが、正直日本の検査体制が出遅れたのは、Ⅱ類相当に分類されて保健所の管轄となったために、また各種専用検査キットや専用機器の開発が遅れて入手困難になったため、本来スペシャリストがいる検査センターや日常、遺伝子検査を行っている医療機関の検査室が最初は活躍できなかったのではないかと。今後は日本臨床検査医学会の専門委員会が雑誌に発表している通り、抗原検査や抗体検査などの関連検査の意義も公表されており、感染症専門学会、厚生労働省や医師会と一体となり引き続き臨床検査を盛り上げてほしい。POCTとしてのCOVID-19抗原定性検査が良い例であるが、在宅医療や介護分野においても、やがて起こる世界を席卷する感染症のための検査を積極的に導入して、臨床検査専門医が関与できる体制が組めれば、さらに医療現場で活躍する存在になるのではないだろうか。

事務局だより

【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2022年6月10日現在数606名、専門医507名

【新入会員】(敬称略)

板垣 裕子：独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター 臨床検査科

高門美沙季：愛媛大学医学部附属病院検査部(糖尿病内科・臨床検査医学)

中村 正樹：北里大学医学部臨床検査診断学

伊東 遥：東海大学医学部付属病院 臨床検査科

森田 洋平：松山赤十字病院 腎臓内科

佐藤 碧：倉敷中央病院 病理診断科

遠藤 育子：日本医科大学多摩永山病院 中央検査室

北川 浩樹：広島大学病院 感染症科

野村 憲一：独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター 内科

加藤 寿光：群馬大学医学部附属病院感染制御部

小川 正浩：福岡大学医学部 臨床検査医学講座

小柳 尚子：福岡大学病院 臨床検査部

森戸 夏美：福岡大学 健康管理センター

土戸 康弘：京都大学医学部附属病院 検査部

野口 太郎：京都大学医学部附属病院 検査部

吉川 真弘：日本大学医学部 臨床検査医学分野

渡辺 珠美：自治医科大学附属さいたま医療センター 臨床検査部

桶作 崇智：壮幸会 行田総合病院

【所属・その他変更】(敬称略)

江橋 正浩：旧 いばらぎ健康管理センター

新 与那国診療所(沖縄県八重山郡)

藤井 聡：旧 旭川医科大学病院臨床検査・輸血部

新 北海道大学病院検査・輸血部

吉野 麻衣：旧 九州大学病院 SAS センター

新 健和会大手町病院

松下 弘道：旧 国立がん研究センター中央病院臨床検査科
新 慶應義塾大学医学部 臨床検査医学

後藤 和人：旧 九州大学病院 検査部
新 東海大学医学部 基盤診療学系臨床検査学(准教授)

小林実喜子：旧 信州大学医学部病理組織学教室
新 社会医療法人抱生会 丸の内病院検査課・病理診断科

三宅 一徳：旧 順天堂大学医学部附属浦安病院臨床検査医学科
新 順天堂大学医療科学部臨床検査学 学科長・教授

上原 由紀：旧 聖路加国際病院臨床検査科
新 藤田医科大学医学部感染症科

宮地 勇人：旧 東海大学医学部基盤診療学系臨床検査学
新 新渡戸文化短期大学臨床検査学 教授・副学長

【退会会員】

秦 美暢：医療法人社団葵会 AOI 国際病院

大月 道夫：東京女子医科大学内分沁内科学

【第60回日本臨床検査専門医会総会報告】

第60回日本臨床検査専門医会総会は2022年5月21日(金)に鹿児島市町村自治会館およびzoomによるハイブリッドにて開催されました。

<審議事項>

第一号議案：2021年度決算について(別表1)

別表1 2021年度決算報告

2021年度 決算報告

20220521総会承認

項 目		2021年度予算額	2021年度決算額	予算と決算の差
収入欄	会費			
	会員会費	6,535,000	6,215,000	-320,000
	賛助会員会費・寄付金	3,300,000	3,400,000	100,000
	小 計	9,835,000	9,615,000	-220,000
	広告収入	250,000	131,155	-118,845
	教育セミナー参加費	400,000	293,000	-107,000
	生涯教育講演会参加費	200,000	0	-200,000
	振興セミナー参加費	60,000	0	-60,000
	利息	1,000	867	-133
	小 計	911,000	425,022	-485,978
入金合計		10,746,000	10,040,022	-705,978
支出欄	庶務経費			
	事務所維持費	1,700,000	1,773,543	-73,543
	人件費	1,750,000	1,659,215	90,785
	設備費	50,000	0	50,000
	電話・FAX使用料	60,000	64,197	-4,197
	通信費(事務局)	210,000	206,908	3,092
	事務局雑費	150,000	148,725	1,275
	小 計	3,920,000	3,852,588	67,412
	事業経費			
	印刷代	1,400,000	915,206	484,794
支出欄	要覧印刷代	0	0	0
	通信費	600,000	900,316	-300,316
	春季大会補助金	500,000	0	500,000
	臨床検査振興セミナー費	850,000	423,180	426,820
	教育セミナー費	650,000	913,690	-263,690
	会議費	1,000,000	209,205	790,795
	交通費	100,000	48,560	51,440
	宿泊費	30,000	17,200	12,800
	原稿料	50,000	0	50,000
	専門医会ネットワーク維持費	100,000	25,080	74,920
	HP維持費	330,000	280,500	49,500
	会員管理委託費	132,000	66,000	66,000
	広報活動費(委員会HP)	50,000	0	50,000
	JCCLS会費	50,000	50,000	0
	WASPALM会費	55,000	54,676	324
	臨床検査振興協議会	300,000	300,000	0
	内保連	200,000	200,000	0
	予備費	429,000	872,553	-443,553
	小 計	6,826,000	5,276,166	1,549,834
出 金 合 計		10,746,000	9,128,754	1,617,246
収 支 決 算		0	911,268	-2,323,224
前年度繰越金+定期預金			31,162,851	
次年度繰越金+定期預金			32,074,119	

別表 2 2021 年度決算
2021年度 正味財産増減計算書
2021年12月3日から2022年3月31日まで

			(単位：円)
項 目		2021年度決算	
収 入 欄	そ の 他	利息	5
		小 計	5
		収 入 合 計	5
支 出 欄	庶 務 費	事務所維持費	480,356
		人件費	743,170
		設備費	1,784
		電話・FAX使用料	11,407
		通信費（事務局）	57,051
		顧問料	187,000
		事務局雑費	10,924
		小 計	1,491,692
	事 業 費	印刷代	94,446
		通信費	77,308
		会議費	6,349
		交通費	4,000
		HP維持費	82,500
		会員管理委託費	33,000
		小 計	297,603
	支 出 合 計		1,789,295
	当期経常増減額（収入－支出）		△ 1,789,290
	資産受贈益		32,104,290
	設立費用		270,570
	税引前当期正味財産増減額		30,044,430
	法人税等		17,500
	税引後当期正味財産増減額		30,026,930
	正味財産期首残高		0
	正味財産期末残高		30,026,930

貸借対照表

2022年3月31日現在

科目	当年度
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	34,428,391
前払金	144,380
流動資産合計	34,572,771
資産合計	34,572,771
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	210,472
前受金	925,000
前受会費	3,350,000
預り金	42,869
未払法人税等	17,500
流動負債合計	4,545,841
負債合計	4,545,841
III 正味財産の部	
正味財産	30,026,930
正味財産合計	30,026,930
負債及び正味財産合計	34,572,771

注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理 税込法によっている。

附属明細書

記載すべき事項はない。

第二号議案：任意団体としての日本臨床検査専門医会の解散について

第一号議案、第二号議案は異議なく承認されました。

【2022 年度定時社員総会報告】

任意団体の総会に続き、一般社団法人日本臨床検査専門医会 2022 年度定時社員総会が開催されました。詳細について

別表 3 2022 年度事業計画・予算

2022年度 予算
2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位：円)

項 目		2022年度予算額	2021年度予算額	増減
収 入 欄	会 費			
	会員会費	5,455,000	6,535,000	▲ 1,080,000
	賛助会員会費・寄付金	3,000,000	3,300,000	▲ 300,000
	小 計	8,455,000	9,835,000	▲ 1,380,000
	そ の 他			
	広告収入	440,000	250,000	▲ 190,000
	教育セミナー参加費	280,000	400,000	▲ 120,000
	生涯教育講演会参加費	0	200,000	▲ 200,000
	振興セミナー参加費	0	60,000	▲ 60,000
	年次大会収入	2,050,000	0	2,050,000
支 出 欄	利息	1,000	1,000	0
	小 計	2,771,000	911,000	1,860,000
	入金合計	11,226,000	10,746,000	480,000
	庶 務 費			
	事務所維持費	1,738,000	1,700,000	38,000
	人件費	2,100,000	1,750,000	350,000
	設備費	10,000	50,000	▲ 40,000
	電話・FAX使用料	60,000	60,000	0
	通信費（事務局）	210,000	210,000	0
	顧問料	462,000	0	462,000
支 出 欄	事務局雑費	135,000	150,000	▲ 15,000
	小 計	4,715,000	3,920,000	795,000
	事 業 費			
	印刷代	600,000	1,400,000	▲ 800,000
	要覧印刷代	500,000	0	500,000
	通信費	400,000	600,000	▲ 200,000
	年次大会費	2,550,000	500,000	2,050,000
	臨床検査振興セミナー費	424,000	850,000	▲ 426,000
	教育研修事業費	390,000	650,000	▲ 260,000
	会議費	200,000	1,000,000	▲ 800,000
支 出 欄	交通費	80,000	100,000	▲ 20,000
	宿泊費	30,000	30,000	0
	原稿料	0	50,000	▲ 50,000
	専門医会ネットワーク維持費	220,000	100,000	120,000
	HP維持費	330,000	330,000	0
	会員管理委託費	132,000	132,000	0
	広報ネットワーク委員会関連費用	50,000	50,000	0
	JCCLS会費	50,000	50,000	0
	WASPALM会費	55,000	55,000	0
	臨床検査振興協議会	300,000	300,000	0
支 出 欄	内保連	200,000	200,000	0
	予備費	0	429,000	▲ 429,000
	小 計	6,511,000	6,826,000	▲ 315,000
	出 金 合 計	11,226,000	10,746,000	480,000
	収 支 決 算	0	0	0

はホームページに掲載予定です。

主な審議事項として 2021 年度決算（別表 2）、有功会員 1 名の推薦、承認がありました。

有功会員 濱田 哲夫先生

また、2022 年度事業計画・予算（別表 3）が報告されました。行事予定は以下の通りです。

《2022 年行事予定》

4 月 23 日（土）第 1 回理事会（Zoom 会議）

5 月 20 日（金）～ 5 月 21 日（土）第 1 回年次大会（鹿児島）

20 日（金）第 2 回理事会、生涯教育講演会

21 日（土）第 60 回総会（任意団体）、2022 年度定時社員総会
6 月 10 日（金）～ 20 日（月）

第 91 回教育セミナー（WEB セミナー形式）

7 月 22 日（金）第 39 回臨床検査振興セミナー（ライブ配信）

9 月 17 日（土）第 3 回理事会

11 月 11 日（金）臨床検査の日、全国検査と健康展

11 月 17 日（木）～ 20 日（日）

第 69 回日本臨床検査医学会学術集会（宇都宮）

第 4 回理事会、2022 年度臨時社員総会・講演会、共催セミナー（学術集会同会期中に開催予定）

11 月～ 12 月 役員選挙

2023 年 1 月～ 3 月 第 5 回理事会、要覧発行

【第 1 回年次大会報告】

第 1 回年次大会（橋口照人会長・鹿児島大学）は、5 月 20 日

(金)～21日(土)に鹿児島市町村自治会館を会場にハイブリッド形式で開催されました。「次世代バイオマーカーへの挑戦」をメインテーマに各種講演を実施、現地・WEB合わせて約290名の参加者があり、活発な議論がありました。

【第2回年次大会予定】

第2回年次大会は2023年6月23日(金)～24日(土)に東京(昭和大学上條記念館・品川区旗の台)で開催予定です。

木村 聡 大会長(昭和大学)より「同時期開催予定の全国国立大学法人病院検査部会議と重ならないよう、矢富 裕先生からスケジュール調整していただきました。多数のご参加をお待ちしております。」

【第39回臨床検査振興セミナーのお知らせ】

第39回臨床検査振興セミナーは、以下の日程で開催予定です。

本会賛助会員、また正会員の皆様にご参加いただけます。

ホームページに詳細を掲載します。

日 時：2022年7月22日(金) 14:30～17:00

開催形態：WEBセミナー(ライブ配信)

内 容：

第1部 令和4年度診療報酬改定を巡って

座長：山田 俊幸(日本臨床検査専門医会 副理事長)

講演1「令和4年度診療報酬改定について」

講師：荒川 直紀(厚生労働省保健医療課)

講演2「診療報酬改定に対する臨床検査専門医会としての考え」

講師：松下一之(日本臨床検査専門医会常任理事・保険点数委員会委員長)

第2部 座長：横崎 典哉(日本臨床検査専門医会常任理事・渉外委員会委員長)

特別講演「公正競争規約と最近の動向」

講師：津藤 保(医療機器業公正取引協議会)

*第1部、第2部とも臨床検査領域講習の単位申請中です。

【第69回日本臨床検査医学会学術集会のお知らせ】

会 期：2022年11月17日(木)～20日(日)

会 場：栃木県総合文化センター、宇都宮東武ホテルグランデ

大 会 長：山田 俊幸(自治医科大学 臨床検査医学)

副大会長：小谷 和彦(自治医科大学 地域医療学)

テ ー マ：地域社会に貢献する臨床検査

詳細は日本臨床検査医学会ホームページをご確認ください。

<http://jslm69.umin.jp/>

【2022年度会費振込のお願い】

本年3月に年会費振込用紙をお送りいたしました。未納の方は納入くださいますようお願いいたします。

2022年度年会費(会計年度：2022年4月～2023年3月)：10,000円(2022年4月1日現在70歳以上の方は5,000円)

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店(ゼロイチキウ店)

預金種目：当座 口座番号：0020509

口座名：一般社団法人日本臨床検査専門医会

シャ)ニホンリンショウケンサセンモンイカイ

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にとまって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。

勤務先、住所およびE-mail address等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。ホームページに変更届のフォームが掲載されております。

<連絡先>

一般社団法人 日本臨床検査専門医会 事務局

(水・土日祝祭日は休業日)

電話：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110

メールアドレス：senmon-i@jaclap.org

【会員の声】

臨床検査専門医を取得して

東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・生活習慣病予防講座

山口 聡子

東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・生活習慣病予防講座の山口聡子と申します。私は東京大学を卒業後、基礎研究に進み、大学院中から留学し、海外でのポスドクを経て帰国後に内科の研修を受けました。出産を経て現在は東京大学医学部附属病院で臨床研究を主に行っております。臨床検査専門医を目指したきっかけは、検査部の矢富裕先生と西川真子先生から、研究を続けながら、カリキュラム制の研修を受けて臨床検査専門医の資格を取得してみないか、とお誘いをいただいたことです。それまでは全く臨床検査専門医の取得の可能性など考えたことも無かったのですが、日頃の臨床研究や非常勤先の診療で臨床検査について理解することの重要性は身に染みておりましたので、研究職を続けながらも臨床検査を系統的に勉強しなおし、理解を深める貴重な機会をいただけたと思いました。また、虎の門病院の小池由佳子先生や増田亜希子先生から、日常的に、臨床検査専門医の業務や重要性について伺う機会が多かったことも、専門医を目指す決心をした理由の一つでした。このような経緯で、カリキュラム制専攻医としての研修をさせていただきました。

専門医試験で特に印象に残ったのは面接でした。臨床検査全般についていろいろとディスカッションさせていただく中で、面接官をしてくださった先生が、「血液像の形態学は臨床検査におけるプライマリケア」とおっしゃっていたお言葉が大変印象的でした。確かに市中病院で検査技師さんに血液像の異常を指摘いただいたことを契機に、診断につながった症例も少なからず経験しており、無事試験に合格した暁には、検査技師さんとも協力しながら、臨床検査専門医として勉強したことを微力ながら患者さんのために役立てて行けるようにしたいと気持ちを新たにしました。

臨床検査専門医としてはまだまだ未熟ですが、今後、専門医としての知識を診療や研究に活かしたり、逆に診療や研究を通して臨床検査への理解を深めたりできればと思っています。さらに、若い先生方にも臨床検査専門医の資格に興味を持っていただけるように広めていきたいと思っています。

矢富先生、西川先生はじめ、ご指導くださいました先生方、検査技師の方々にこの場を借りて感謝申し上げます。今後ともご指導のほどお願い申し上げます。

臨床遺伝専門医めざして、皮膚科診療に従事する

臨床検査専門医です

弘前大学医学部附属病院検査部

皆川 智子

はじめまして、弘前大学医学部附属病院検査部 助教の皆川智子と申します。

当検査部は、血液(末梢血・血液凝固能)、生化(生化学・

免疫・血清)、一般(尿などの体液)、細菌(微生物)、生理検査室、輸血、病理の7部門からなります。2021年4月日本臨床検査技師会ならびに日本臨床検査標準協議会の精度保証施設認証、7月に検査部門(検査部、輸血部、病理部)として国際規格ISO 15189を取得しております。ISO 15189取得に向け多忙を極めている中、各部門の主任さんや技師さんは親身にご指導くださいました。最後は櫛引主任の血液実技猛特訓で、何とか第38回臨床検査専門医認定試験に合格することができました。

自己紹介ですが、私は弘前市立第一中学校出身で、はやぶさの川口淳一郎先生、ソフトボール元日本代表 齋藤春香監督が大先輩です。弘前市では小学生から、生きる原動力を培う「ひろさき市学」を学びます。「ひろさき市学」は弘前の歴史や文化・風土などを知ることによって、先人の工夫や高い志などを学び、人生を主体的に切り拓く力と地域に貢献しようとする意欲を育むキャリア教育です。青森県はリンゴ生産日本一で、リンゴ栽培の手法を桜に生かした桜を誇る弘前城は学区内にあります。弘前城の惣構は城下一帯を城郭と見立て、濠や土塁で囲い込んだ防衛でしたので、民は守りの“要”でした。

私は現役の春、弘前大医学部を受験するも“桜散る”。その後東北大農学部に進学するも、バブル崩壊後の理系女子就職難に直面、“やはり医師になりたい!”と再入学しました。臨床遺伝専門医:澤村大輔先生の研究室研修生として皮膚科学講座に配属され、卒後入局しました。皮膚科専門医・学位取得し助教として頑張っていた頃、第1子を懐妊、産前5週で退職になりました。夫の実家で育児に専念し、夫の留学に伴い渡米しました。John R. Stanley 先生に師事されていた慶応大:山上 淳先生のご高配でPennsylvania 大皮膚病理部:Rosalie Elenitsas 先生のもとで研修しました。退職者は育児休業給付資格がないため、帰国後ハローワークに通い、失業給付を受給しました。息子が1歳半ごろに医員として復職しました。2013年第2子出産後、生後10週の娘をひろだい保育園(院内)に預けて4月1日付で復職しました。

弘前大学男女共同参画推進室から研究支援員を派遣頂き、細々と電頭や臨床研究継続しておりましたが、正規採用を希望し日本医師会女性医師バンクに登録しました。2016年2月頃コーディネーターの方からご連絡頂き、齋藤副部長が留学中で医師不足だった検査部に2016/4/1付けで助教(病院長枠)として採用頂きました。

私が医学生の際は保嶋部長で、2016年採用時は萱場部長でした。萱場部長は臨床検査医学講座教授、検査部長、感染制御センター長兼任され、教育や感染制御業務でお忙しく、山本先生が専従医をされていました。私はカリキュラム制で、2016-2018年弘前大学医学部保健学科検査技術科学専攻3年生の学生さんと一緒に検査部実習し、医学生や保

健学科検査技師養成課程の医療安全管理学、微生物学、生理学の講義・実習や、ICDとして感染制御センターの院内巡視などの皮膚科診療と両立できる業務を担当しておりました。山本先生は臨床検査専門医取得+大学院卒業後、検査部の助教だった女性内科医師2名は診療科の業務との調整が難しく1-数年で検査部を去られましたので、私が臨床検査専門医をとれたのは本当に色々な方々のご配慮の賜物だと思います。

当検査部は採用枠が少ないためやむを得ず少数精鋭なのですが、1技師あたりの検体数は国立大学病院の中ではTOP10に入る位忙しい中、皮膚科外来で入院予約した患者様の心電図異常あれば心エコー、うつ滞性皮膚炎や静脈瘤の患者様は下肢エコー、血液疾患や悪性リンパ腫で皮膚生検した患者様は血液内科で骨髄穿刺刺し、臨床検査医としての症例を積み重ねさせて頂きました。

2021年12月~富田泰史部長のもと、午前:皮膚科診療、午後は検査部に勤務しています。保健学科の非常勤講師として実習や講義、ICDにて感染制御センター委員、産業医にて男女共同参画推進室室員3号や衛生管理者、再生医療委員を担当しています。皮膚科外来で魚鱗癬・神経線維腫症I型(NF1)、肥厚性皮膚骨膜炎症、エーラス・ダンロス症候群等の患者様を担当し、指導医 大門 眞教授のもとで、臨床遺伝専門医を目指しておりますが、遺伝学は奥が深く、毎日勉強の日々で、前途多難です。

検査部は診療の“要”です。診療科と検査部の懸け橋になれるよう、今後も臨床検査専門医としての研さんを積んで学び続けていきたいです。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

【学会のご案内】

学会名:第62回日本臨床化学会年次学術集会
テーマ:異分野連携による臨床化学の発展
会 期:2022年9月30日(金)~10月2日(日)
会 場:富山県民会館
集会長:北島 勲(富山大学 理事・副学長)
副集会長:仁井見英樹(富山大学医学部 臨床分子病態検査学講座)

【編集後記】

私事ですが、9年間お世話になった九州大学病院・検査部を退職して、4月1日より東海大学医学部に異動しました。九州大学病院・検査部では、康 東天 部長を含めて関係者の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。今後とも、JACLaP NEWS も含めてよろしくお願い致します。

(東海大学医学部臨床検査学 後藤 和人)

一般社団法人 日本臨床検査専門医会

理 事 長: 〆谷直人、副理事長: 山田俊幸

常 任 理 事: 東田修二(庶務)、増田亜希子(会計)、菊池春人(資格審査・規定改定委員会委員長)、横崎典哉(渉外委員会委員長)、
福地邦彦(情報・出版委員会委員長)、松下一之(保険点数委員会委員長)、五十嵐岳(広報・ネットワーク委員会委員長)、
田部陽子(教育研修委員会委員長)

理 事: 藤井 聡、植木重治、浅井さとみ、山田鉄也、尾崎 敬、北中 明、橋口照人

監 事: 古川泰司、東條尚子

情報・出版委員会:

委員長: 福地邦彦

委 員: 五十嵐岳、出居真由美、井上暢子、後藤和人、信岡祐彦、盛田俊介、吉田 博

一般社団法人 日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL: 03-3864-0804 FAX: 03-5823-4110 E-mail: senmon-i@jaclap.org